

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】 第 6 部門第 1 区分

【発行日】 令和 5 年 6 月 20 日 (2023.6.20)

【国際公開番号】 WO2022/070731

【出願番号】 特願 2022-553564 (P2022-553564)

【国際特許分類】

G 0 1 N 2 1 / 8 8 (2 0 0 6 . 0 1)

G 0 6 T 7 / 0 0 (2 0 1 7 . 0 1)

G 0 6 V 1 0 / 7 4 (2 0 2 2 . 0 1)

【 F I 】

G 0 1 N 2 1 / 8 8 J

G 0 6 T 7 / 0 0 3 0 0 E

G 0 6 T 7 / 0 0 6 1 0 C

G 0 6 V 1 0 / 7 4

10

【手続補正書】

【提出日】 令和 5 年 4 月 28 日 (2023.4.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 請求項 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【請求項 1】

プロセッサと、構造物の撮影画像及び構造物の損傷情報の少なくとも一方を含む構造物に関する情報と構造物の損傷に対する 2 時点以上の診断結果とを関連付けて記憶するデータベースと、を備える構造物の診断事例提示装置であって、

前記プロセッサは、

診断対象である対象構造物の撮影画像及び損傷情報の少なくとも一方を含む対象構造物に関する情報を取得し、

30

前記対象構造物に関する情報と前記データベースに記憶された前記構造物に関する情報とに基づいて、前記対象構造物の損傷と類似する類似損傷を抽出し、

前記類似損傷を有する構造物の診断結果であって、2 時点以上の診断結果が異なる構造物の診断結果を、特定診断事例として前記データベースから抽出し、

前記特定診断事例に関連する情報をディスプレイに出力する、

構造物の診断事例提示装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 請求項 1 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【請求項 1 4】

診断対象である対象構造物の撮影画像及び損傷情報の少なくとも一方を含む対象構造物に関する情報を取得し、

前記対象構造物に関する情報とデータベースに記憶された前記対象構造物に関する情報とに基づいて、前記対象構造物の損傷と類似する類似損傷を抽出し、

前記類似損傷を有する構造物の診断結果であって、前記データベースに記憶された 2 時点以上の診断結果が異なる構造物の診断結果を、特定診断事例として前記データベースから抽出し、

前記特定診断事例に関連する情報をディスプレイに出力する、

40

50

ことをプロセッサにより行う構造物の診断事例提示方法。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 請求項 1 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【請求項 1 5】

診断対象である対象構造物の撮影画像及び損傷情報の少なくとも一方を含む対象構造物に関する情報を取得し、

前記対象構造物に関する情報とデータベースに記憶された前記対象構造物に関する情報とに基づいて、前記対象構造物の損傷と類似する類似損傷を抽出し、

前記類似損傷を有する構造物の診断結果であって、前記データベースに記憶された 2 時点以上の診断結果が異なる構造物の診断結果を、特定診断事例として前記データベースから抽出し、

前記特定診断事例に関連する情報をディスプレイに出力する、

ことをプロセッサにより行う構造物の診断事例提示方法。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

上記目的を達成するために第 1 態様に係る発明は、プロセッサと、構造物の撮影画像及び構造物の損傷情報の少なくとも一方を含む構造物に関する情報と構造物の損傷に対する 2 時点以上の診断結果とを関連付けて記憶するデータベースと、を備える構造物の診断事例提示装置であって、プロセッサは、診断対象である対象構造物の撮影画像及び損傷情報の少なくとも一方を含む対象構造物に関する情報を取得し、対象構造物に関する情報とデータベースに記憶された構造物に関する情報とに基づいて、対象構造物の損傷と類似する類似損傷を抽出し、類似損傷を有する構造物の診断結果であって、2 時点以上の診断結果が異なる構造物の診断結果を、特定診断事例としてデータベースから抽出し、特定診断事例に関連する情報をディスプレイに出力する。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

本発明の第 1 態様によれば、診断対象である対象構造物に関する情報を取得すると、取得した対象構造物に関する情報に基づいてデータベースから特定診断事例を抽出し、特定診断事例に関連する情報をディスプレイにより提示する。ここで、特定診断事例は、対象構造物の損傷と類似する類似損傷を有し、かつ類似損傷を有する構造物の診断結果が、2 時点以上で異なるものである。これにより、診断者は、対象構造物を診断する際に、提示された特定診断事例に関連する情報を参考にすることができ、熟練診断者でなくとも適切な診断が可能になる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 5 0】

第2時点の診断結果は、第1時点の診断者とは異なる診断者（例えば、診断を確定させる結果確認会議等の合議体を含む）により確定した診断結果、目視検査よりも詳細な検査時点（目視検査に加え、破壊検査、非破壊検査等の検査時点）の診断結果、又は構造物の補修設計時点における診断結果が考えられる。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0103

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0103】

10

プロセッサ10は、ステップS40で抽出した特定診断事例に関連する情報を表示部14に出力し、特定診断事例提示部14Aに表示させる（ステップS50、出力処理）。特定診断事例に関連する情報として、2時点以上の診断結果が異なる診断結果の他に、特定診断事例に対応する撮影画像、損傷情報等を含めることが好ましい。

20

30

40

50